

# 令和2年度 県スマート農業推進施策について

岐阜県農政部農政課スマート農業推進室

令和元年度

令和2年度

令和3～5年度

周知・啓発  
推進体制整備

技術実証の拡大  
人材の育成

実証技術の波及、新技術の開発

◎重点

- ・「スマート農業サミットinぎふ」の開催 (R1.8)
- ・岐阜県スマート農業推進協議会の設置 (R1.11)
- ・地域スマート農業推進会議の設置 (R1年度)
- ・スマート実証農場の設置 ((農) 巣南営農組合)
- ・県スマート農業推進員、専門員の育成
- ・スマート農業機械・機器等の導入支援



|         | 具体的施策  |
|---------|--|
| 情報収集・発信 | ◎「スマート農業推進拠点」(オペレーションセンター、モデル温室)の開所<br>◎拠点を活用した最新機器の実演会・展示会、研修会の開催<br>・岐阜県スマート農業推進協議会の実施<br>・民間企業、国、他県等からの情報収集 等 |
| 技術の実証   | 実証品目を水稲に加えて、施設園芸、その他土地利用型作物、畜産に拡大<br>◎冬春トマトのデータ分析による最適な栽培体系の構築<br>◎「スマート実証農場」の設置(実証品目の拡大)<br>・農業用水等管理モデル地区の設置 等  |
| 技術研修    | ◎農業大学校におけるスマート農業の実践教育<br>・就農研修拠点、あすなる農業塾長等が実施するスマート農業研修実施支援(機器・機械の導入支援)<br>・スマート農業技術研修の実施 等                      |
| 技術の普及   | ◎産地における新たな技術体系の構築(品目の拡大、地域の拡大)<br>◎スマート農業機械・機器等の導入支援及び共同利用支援<br>・スマート農業推進員・専門員の育成及び推進活動<br>・タブレット端末を活用した技術指導 等   |
| 新技術の研究  | ・ICTを活用した新たな栽培支援技術の開発  |



目指す効果

省力化・効率化

軽労化・技術の標準化

将来像

- ・少ない人材での経営規模拡大の実現
- ・経験年数等にかかわらず誰もが取り組みやすい農業の実現
- ・単収の向上、高品質生産及び付加価値向上の実現

# 令和2年度 岐阜県スマート農業推進施策 【448,245千円】 (279,479千円)

## 体制整備

### ○岐阜県スマート農業推進協議会

・生産者、農業関係団体、有識者、推進団体等の関係者が一体となって、県スマート農業推進計画の進捗状況の評価・検証やスマート農業を推進するための取組みの検討を実施。

### ○岐阜県スマート推進ワーキンググループ

・協議会の下に、県関係課で構成するワーキンググループを営農類型（土地利用型、施設園芸、畜産）ごとに設置し、スマート農業技術を活用した産地の目指す方向について検討。R2年度以降は、営農類型の拡大を検討。

### ○地域スマート農業推進会議

・県下10農林事務所に設置した、JA等農業関係団体、市町村、県農林事務所等で組織する「地域スマート農業推進会議」において、地域・産地に適したスマート農業技術導入の検討やスマート農業技術の導入支援を行う。

## ① 情報集約・発信

【17,440千円】

### 新 スマート農業推進拠点の開所

・スマート農業の情報発信の場として、トマトの栽培環境の自動制御ができる温室やロボットトラクタ等の操作を体験できるオペレーション機能を備えた「スマート農業推進拠点」を開所する。

### 新 拠点を活用した実演会・展示会、研修会の開催

・農業者のスマート農業の活用に関する技術力向上やスマート農業の導入に向けた理解促進等を図るため「スマート農業推進拠点」を活用した実演会・展示会、研修会を開催する。

### ○ 全国の取組事例調査、展示会への参加

・全国でスマート農業に先進的に取り組んでいる都道府県の事例調査や、最新機器等の展示会に参加する。

## ② 技術の実証

【257,929千円】

### 新 冬春トマトのデータ分析による最適な栽培体系の構築

・施設園芸産地（冬春トマト）において、複数農業者の栽培環境、生育データ等に関するデータの収集を行い、AI分析により最適な栽培体系を構築する取組みを支援する。  
（1か所応募予定）  
※国事業「次世代につなぐ営農確立支援」活用

### 新 「スマート実証農場」の設置

・水稻、園芸等の営農類型ごとに「スマート実証農場」を設置し、データを収集することで、経費の削減効果、省力化・効率化の効果等を実証する。（県関係：5か所応募中）  
※国事業「スマート農業加速化実証プロジェクト事業」活用

### ○ 水管理省力化ICT技術の実証・普及啓発

・水管理の省力化モデル地区（パイプライン1地区、開水路2地区）における導入効果の実証や「水管理省力化ICT技術導入の手引き」によるスマート農業技術の普及啓発を行う。

## ③ 技術研修

【70,983千円】

- 新** 農業大学校におけるスマート農業の実践教育
  - ・ 農業大学校におけるスマート農業の実践教育の充実を図るため、自動で環境制御ができるトマト温室を整備するほか、牛の分娩を遠隔で監視するシステムを導入する。
- 新** スマート農業等に取り組む新規就農者の育成
  - ・ 農業後継者や他産業でキャリアを積んだ新規就農者に対し、スマート農業等に取り組み、高度な経営能力の習得を支援するための資金を交付する。
- 就農研修拠点等のスマート農業技術研修の実施支援
  - ・ 就農研修拠点やあすなる農業塾長が実施する就農研修生を対象とした研修において、スマート農業技術を活用した研修を実施する場合、それに必要な農業用機械等の導入を支援。
- スマート農業技術研修の実施
  - 新** ・ ICT等の専門家を対象として、農業について学ぶ研修を実施し、スマート農業の指導者として育成する。
  - ・ 農業者を対象として、品目及び作業時期ごとに、スマート農業技術を活用した省力化・効率化、作業負担の軽減等について学ぶ技術研修を実施する。
- スマート農業実践者のネットワーク化
  - ・ 県内のスマート農業実践者の仲間づくりを進め、技術の情報共有を図るため、ネットワーク会議を開催する。

## ④ 技術の普及

【66,769千円】

- スマート農業機械・機器等の導入支援
  - ・ スマート農業技術を導入して、自身の経営の発展・改善を目指す農業者に対して、それに必要な施設・農業用機械等の導入を支援。
- 新** ・ 中山間地域等で、集落協定等を結び、スマート農業技術を共同で利用し、作業に係る経費の削減や農地の維持等を図る場合、それに必要な機器・機械等の導入を支援。
- 新** タブレット端末を活用した技術指導
  - ・ 新規就農者が現場で分かりやすい技術指導を受けられるよう、農業革新支援専門員及び施設園芸（トマト）担当者を中心にタブレット端末を配備する。
- 産地における新たな営農技術体系の構築
  - ・ スマート農業技術を活用して省力化や高品質化を図る産地の新たな営農技術体系を構築する取組みを支援。  
(5か所応募予定)  
※国事業「次世代につなぐ営農確立支援」活用
- スマート農業推進員・専門員の育成
  - ・ スマート農業の普及促進を図るため、普及指導員やJA営農指導員を対象として、スマート農業の動向や優良事例を研修する「スマート農業推進員研修」と作物別・専門分野ごとの技術を習得する「スマート農業専門員研修」を実施する。
- 鳥獣捕獲用檻・わな等の導入支援
  - ・ ICTを活用した捕獲檻・わな等の導入に係る経費に対して支援。

## ⑤ 研究

【35,124千円】

### ○ ICT等を活用した新たな栽培支援技術の開発（農政）

国研究機関、大学、民間企業等と連携しICTやAI技術による省力化や高品質化等につながる革新的な生産管理システムを開発する。

**新**（令和2年度～令和6年度）

- ・ 柿の輸出に適した果実の画像判別技術等の開発
- ・ 飛騨桃の輸出拡大に向けた品種選定と輸出に適した果実の画像判別技術等の開発

**新**（令和2年度～令和5年度）

- ・ 人工衛星によるセンシング等を活用した良質良食味米区分集荷技術の開発
- ・ ICTを活用したイチゴ高設栽培の高位安定生産

**新**（令和2年度～令和4年度）

- ・ クリ栽培の防除及び収穫作業の省力化を可能とするスマート農業技術の開発
- ・ ドローンを活用したカワウ被害対策技術開発

（令和元年度～令和5年度）

- ・ トマトの生育状況や気象等に応じた最適環境制御技術の開発
- ・ AIを活用した花きの出荷予測・開花調整技術の開発
- ・ カキの食感を非破壊で測定する機器の開発
- ・ 牛の健康状態をリアルタイムでモニタリングするセンサの開発

（平成29年度～令和3年度）

- ・ AIを活用した病害虫診断技術・土壌病害診断技術の開発